



# 赤木の生家と少年時代

## 1. 民につくす赤木家

赤木家の祖先は山名宗全ひつげんの分かれで、但馬の上の郷に城を持った赤木丹後守の子が赤木の家の初代となる。祖父は、安政年間の財政逼迫で年貢米の加重に苦しむ民の現状に意を決し、単身出府し将軍に直訴した。但馬の佐倉宗五郎さくらむねごろうである。逆礫さかざらを覚悟していた祖父に終身自宅謹慎という、考えられぬくらい軽い刑の言い渡しで、訴願の筋は容れられた。父は維新後引野村の荘官を命ぜられ、蓼川(円山川)右岸百三十町歩の開田をなし、明治10年(1877)蓼川堰水路の責任者となりその改修を行った。明治39年(1906)の大洪水では、私財13,000円余を投じて修理をなした。淀川の砂防費が29,000円だった当時である<sup>1)</sup>。

## 2. 敬愛する兄 赤木一雄

赤木正雄の兄の一雄も、中筋村の村長を通算17年にわたって務めるとともに、中筋信用組合を創立し、中筋農業協同組合初代組合長、城崎郡農会長など地元の要職につき、故郷のために尽くしている<sup>2)</sup>。さらに正雄が欧州に私費で留学する際には、渡航資金の援助を行い送り出している。そして、正雄の在欧中に起った関東大震災では日本からの情報が途絶え、日々家族の安否を気遣っていた頃、一雄から待ちわびた電報が届けられ、その時の感謝の気持ちをはじめ、兄に対する敬愛の気持ちは終生変わらなかった<sup>3)</sup>。

## 4. 生家

生家は兵庫県豊岡市引野の円山川の辺りにある。約900坪の敷地を有し、周辺は水田に囲まれ、ときには特別天然記念物の「コウノトリ」が飛んでくる。水田の向こうには緑の里山が広がり、円山川がゆったりと流れている。このあたりの円山川は勾配が緩く洪水を起こすことが頻繁で、堤防が切れ氾濫すると、あたり一帯の田圃は湖水と化する。



赤木家

円山川



赤木生家

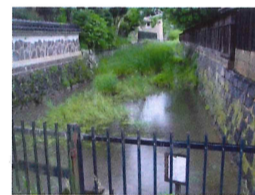


赤木生家正門

写真提供：赤木 新太郎氏



西側の竹林



南側の蓮池



洪水時に備えた木船



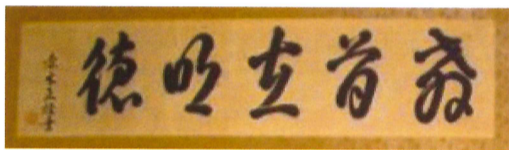
玄武岩の石垣で囲っている



前列 左：赤木正雄 中：父 赤木甚太夫 右：兄 赤木一雄  
後列 姉 こずゑ、姉婿

## 3. 少年時代の赤木

正雄は、6人の兄弟姉妹の末子の二男として明治20年(1887)3月24日に生まれた。中筋小学校を卒業し兵庫県立豊岡中学に学び、上京して第一高等学校に入学した。(第2回で紹介した)中筋小学校には、後年赤木が揮毫した額が掲げられている。



豊岡市立中筋小学校校長室に掛かる赤木正雄直筆の書  
右から「教首立明德」と書かれている

## 5. 円山川の氾濫との戦い

赤木家の南側には防火用水を兼ねた蓮池があり、裏門を出たところには堤防決壊時に濁流が直接屋敷に当たるのを防ぐ水防竹林がある。非常時にはこの竹で筏を組み、蛇籠を作ったという。生家の軒先には木舟が吊るしてあり、洪水時、避難している人たちに食料などを配るのにこの舟を使った。敷地は水に浸からないように石垣で周囲より高くしてある。

また、屋敷内には水脈の違う井戸が2本あり、洪水のときにはどちらか濁っていない方の水を使うことができる等、頻発する洪水に備えた工夫が随所に施こされていた。

## 6. 登録有形文化財に

明治3年(1870)に改築された赤木家は、地域の防災拠点としての役割を持つ一方、景観形成に重要な位置を占め、代表的農村大地主の大邸宅で屋敷全体が明治初期から昭和にかけて地域の生活史を見る上で貴重な文化遺産と評価され、平成17年(2005)11月18日に国の「登録有形文化財」に登録された<sup>4)5)6)</sup>。豊岡市では第1号の登録有形文化財であった<sup>7)</sup>。

平成21年(2009)3月31日には、兵庫県景観形成重要構造物に指定されている。選定理由には「砂防の神様と言われた赤木正雄の生家。水防対策に基づき設計された広大な敷地に建つ住宅で、周辺の緑豊かな田園風景に溶け込んでいる」と記されている<sup>8)</sup>。

## 7. 「砂防の父 赤木正雄展示館」の開設

平成25年(2013)9月5日、砂防関係団体の協力によって「砂防の父 赤木正雄展示館」が赤木生家の一角に開設され、関係者の出席のもとに開館式が行われた<sup>9)</sup>。

一般社団法人とし、会員を募り代表理事は赤木一雄の孫で赤木生家を継いだ赤木新太郎が就任し、砂防協会や兵庫県砂防ボランティア協会の支援のもとに運営され、地元但馬出身の偉人である赤木の功績を伝えるとともに、砂防や防災の認識を広めることを目的に、予約制で週2日無料で開館している。

そして、昭和57年(1982)地元の「但馬赤木会引野支部」によって、金井元彦兵庫県知事(当時)が揮毫した「赤木正雄生誕の地」の碑が建立され、令和3年(2021)には、兵庫県によって道路標識が建てられアクセスが改善されるなど、赤木の出身地に根ざした展示館として、充実してきている。



赤木正雄生誕の地の碑  
後方は生家



赤木正雄展示館の  
案内道路標識

登録有形文化財



赤木生家の正門と砂防の父赤木正雄展示館(左)

絵提供：NPO法人土砂災害防止広報センター



開館を伝える産経・神戸・読売の各新聞

### 参考文献

- 1) 矢野義男：赤木正雄先生小伝、赤木正雄先生追想録、全国治水砂防協会、1973.9
- 2) 但馬赤木会：赤木正雄博士とその後、1988.10
- 3) (社)全国治水砂防協会：赤木正雄先生の浦欧日記、2008.3
- 4) 赤木新太郎：赤木正雄博士生家登録有形文化財に、砂防と治水170、2006.4

- 5) [http://www.5b.biglobe.ne.jp/~t\\_naka/sub901.htm](http://www.5b.biglobe.ne.jp/~t_naka/sub901.htm)：美しい街並み・建物、「ひょうご住宅百選」
- 6) 赤木新太郎：2005年8月例会、「[SABO] 砂防(さぼう)」、2005.8
- 7) 豊岡市教育委員会：公開時の配布資料
- 8) 兵庫県：景観形成重要構造物指定一覧、2009.3.28、兵庫県ホームページ [web.pref.hyogo.lg.jp/ks20](http://web.pref.hyogo.lg.jp/ks20)
- 9) 赤木新太郎：砂防の父赤木正雄展示館の開館、砂防と治水215、2013.10

● 次回は「数々の栄誉 多くのことを私達に遺した」